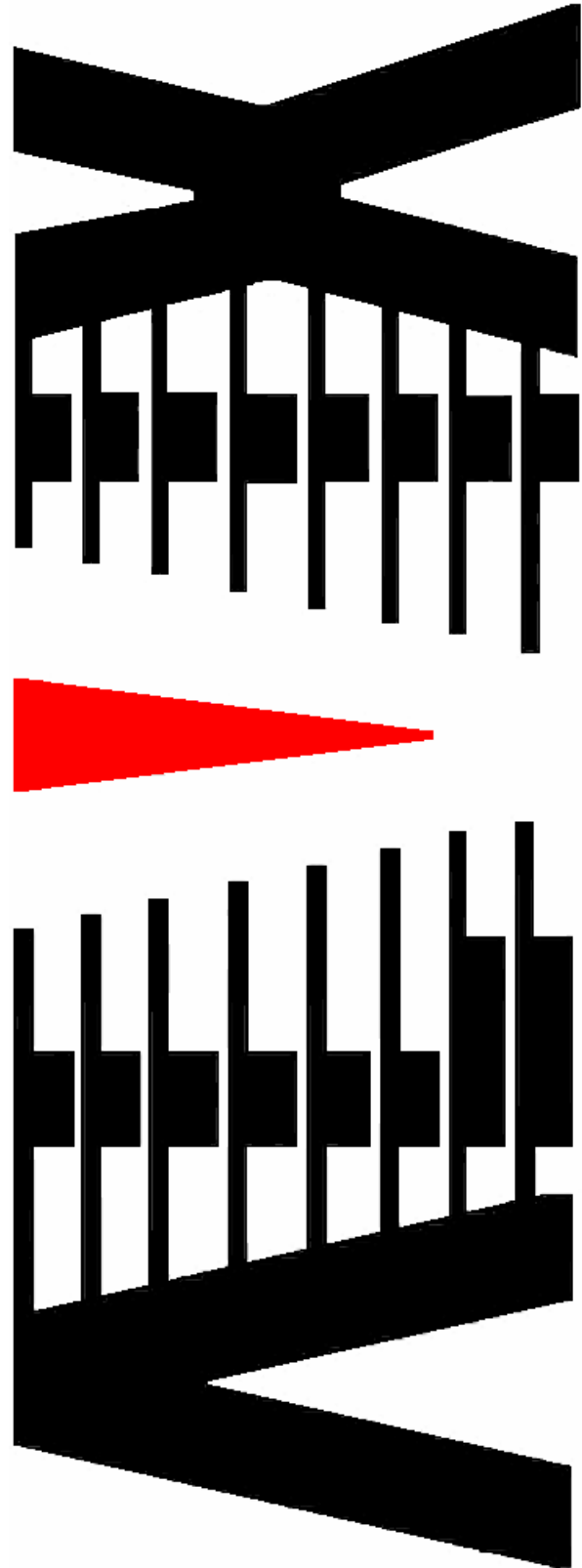


“アルピクス” V/A ERROR DETECTION UNIT  
ビデオ/オーディオ エラー検出装置

取扱説明書

Ver.No. 1.0



御使用の前に必ず本取扱説明書をよく読んで理解して、安全の為の指示に従って下さい。

もし、不明点が有れば販売店か弊社におたずね下さい。

## 目 次

注 意 事 項	．．．．．	3
VA エラー検出装置とは	．．．．．	4
VA エラー検出装置で出来ること	．．．．．	4
・ ウィンドウ画面の座標の指定方法	．．．．．	5
・ 検知する信号仕様	．．．．．	5
仕 様	．．．．．	6
フロントパネル図	．．．．．	7
リアパネル図	．．．．．	8
接 続 方 法	．．．．．	9
IPアドレスの設定	．．．．．	10
・ 動作モードの選択	．．．．．	10
・ IPアドレスの設定	．．．．．	11
		~ 16

## 御使用上の注意事項

### 必ずお守り下さい(安全にお使いいただくために)

#### 警告

内部に液体をこぼしたり、燃え易い物や金属類を落としてはいけません。  
(火災や感電、故障の原因となります。)

煙が出たり、異常音、臭気などに気が付いたときは、すぐに電源コードを抜いて販売店に御連絡下さい。

#### 注意

電源プラグの接続が不完全なまま使用しない。  
(感電やショート、火災の原因となります。)

電源コードを引っ張ったり、重いものをのせたりしない。  
(電源コードが損傷し、火災や感電の原因となります。)

電源コードを引っ張ってコンセントから抜かない。  
(感電やショート、火災の原因となります。)

仕様にて規定された電源電圧以外では使用しない。  
(火災や感電の原因となります。)

#### お願い

風通しの悪い所に置いたり、布などで通風孔を塞いだりしないで下さい。  
(故障の原因となります。)

次の様な所には置かないで下さい。

湿気が多い所、油煙や湯気の当たる所、直射日光の当たる所、熱器具の近く  
埃の多い所、強い磁気のある所、極端に寒い所、極端に暑い所、激しい振動のある所  
安定しない台の上、傾いた所  
(故障の原因となります。)

## V Aエラー検出装置とは

---

“アルビクス” V Aエラー検出装置は、映像・音声のフリーズ、黒画面、ブルー画面、音声信号等のエラーを検知し、1秒毎に正常・異常を外部に100Base-TX/10Base-T対応LANインターフェースにて通知します。

## V Aエラー検出装置で出来ること

---

V Aエラー検出装置は、下記のような画面でエラーを検出します。



< 単画面 >



ウィンドウ画面

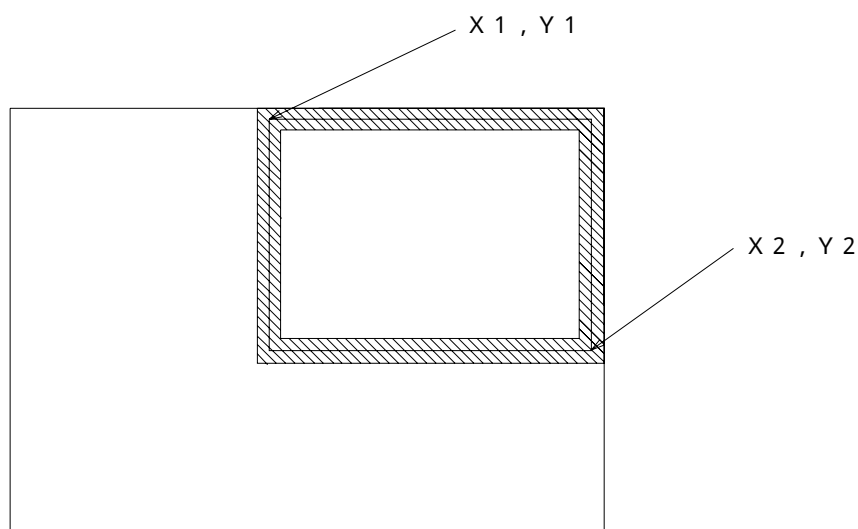
ベース画面

< ベース・ウィンドウを含む画面 >

## ウィンドウ画面の座標の指定方法

ウィンドウ画面の座標の指定方法は、外部コマンドで 始点 ( X 1 , Y 1 ) と終点 ( X 2 , Y 2 ) を指定します。指定すると、モニタ出力からウィンドウ画面の座標の枠が出ます。ベースとウィンドウ画面の切替わりラインが白帯の中間に来るように設定して下さい。

( 外部コマンドについては、“ インターフェース仕様書 ” をご参照下さい)



## 検知する信号仕様

### 映像信号

ブルー	:	1 / 2 以上の青画面が 3 0 フレーム以上続く場合、青画面と判定
単画面		
・フリーズ	:	3 0 フレーム前の映像と比較して、同画面であればフリーズと判定
・ブラック	:	1 / 2 以上の黒画面が 3 0 フレーム以上続く場合、黒画面と判定
ベース / ウィンドウ画面		
・フリーズ	:	3 0 フレーム前の映像と比較して、同画面であればフリーズと判定
・ブラック	:	1 / 2 以上の黒画面が 3 0 フレーム以上続く場合、黒画面と判定
同期信号	:	シンクが切れた際に判定

### 音声信号

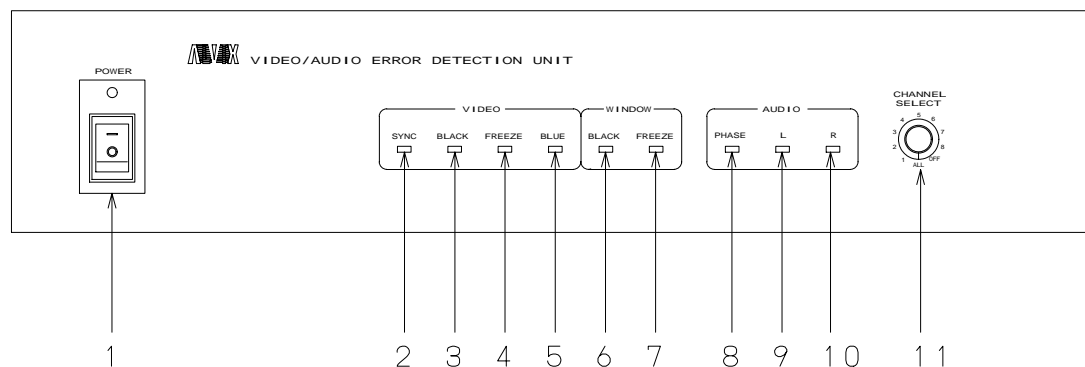
無音	:	定格入力に対して、 - 3 0 d B 以下が 1 秒以上続いた場合、無音と判定
逆相	:	L , R が逆相になった場合に判定
音声マーカー検出	:	1 K H z 信号を検出 ( L チャンネルのみ ) ( 1 K H z とは、放送が休止になった場合に出力される音声信号 )
音声ピークレベル	:	1 秒毎のピーク値を 8 b i t

# 仕 様

---

入 力 信 号	映像信号	チャンネル数	8チャンネル
		信号形式	NTSC
		コネクタ	BNC
	音声信号	チャンネル数	8チャンネル
		信号形式	ステレオ(L, R)
		コネクタ	RCA
モニターアウト		1系統(NTSC)	
外部通信仕様		100BASE-TX / 10BASE-T対応 LANインターフェース	
		コネクタ	RJ-45モジュラ
外形寸法		W430×H88×D455	
重量		約 7 Kg	
消費電力		約40W(AC100V±10%)	
使用温度		0 ~ 40	

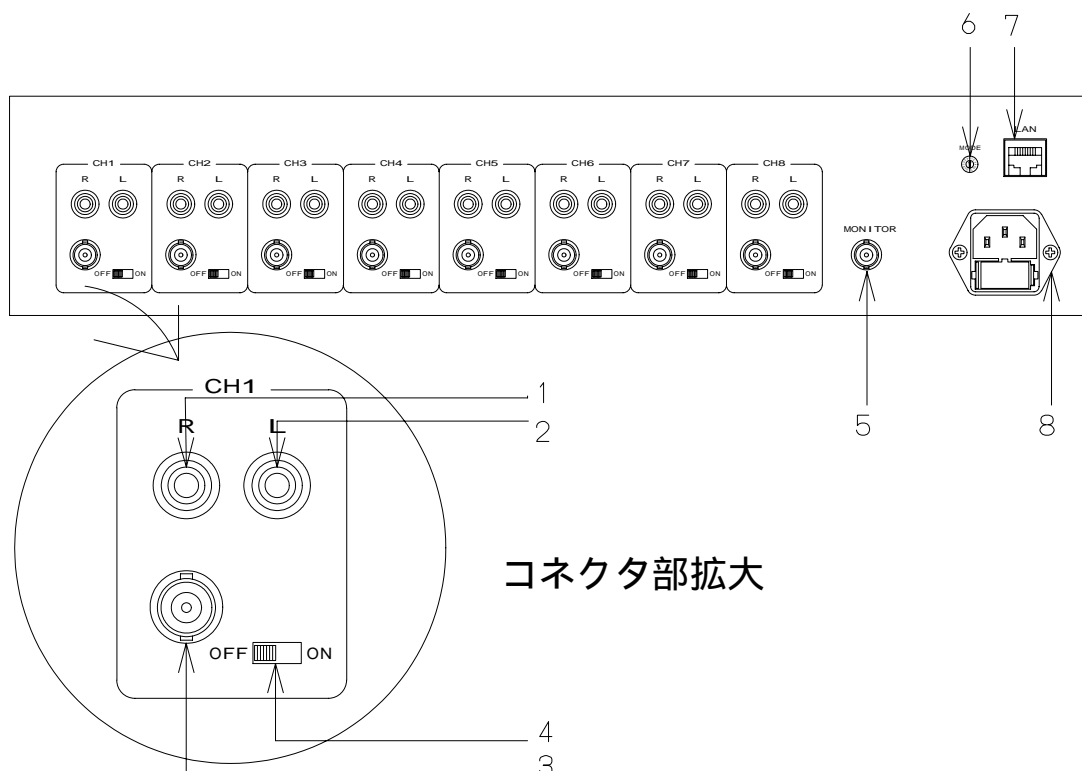
## フロントパネル図



## フロントパネル各部の名称と機能

- 1 . 電源スイッチ  
電源のON / OFFを行います。
- 2 . シンクLED  
シンクが途切れた際にこのLEDが点灯します。
- 3 . ブラックLED (ベース画面)  
1 / 2以上の黒画面が30フレーム以上続く場合、このLEDが点灯します。
- 4 . フリーズLED (ベース画面)  
30フレーム前の映像と比較して、同画面であればこのLEDが点灯します。
- 5 . ブルーLED (ベース画面)  
1 / 2以上の青画面が30フレーム以上続く場合、このLEDが点灯します。
- 6 . ブラックLED (ウィンドウ画面)  
ウィンドウ画面中で、1 / 2以上の黒画面が30フレーム以上続く場合、このLEDが点灯します。
- 7 . ブルーLED (ウィンドウ画面)  
ウィンドウ画面中で、1 / 2以上の青画面が30フレーム以上続く場合、このLEDが点灯します。
- 8 . フェーズ  
音声信号の位相が逆相になった際にLEDが点灯します。
- 9 . L信号のLED  
L信号が無信号になった際にLEDが点灯します。
- 10 . R信号のLED  
R信号が無信号になった際にLEDが点灯します。
- 11 . チャンネルセレクトスイッチ  
1 ~ 8 : それぞれのチャンネルのLED点灯表示。  
ALL : すべてのチャンネルいづれかでエラーを検知した際にLED点灯表示。  
OFF : LEDを消灯。

## リアパネル図



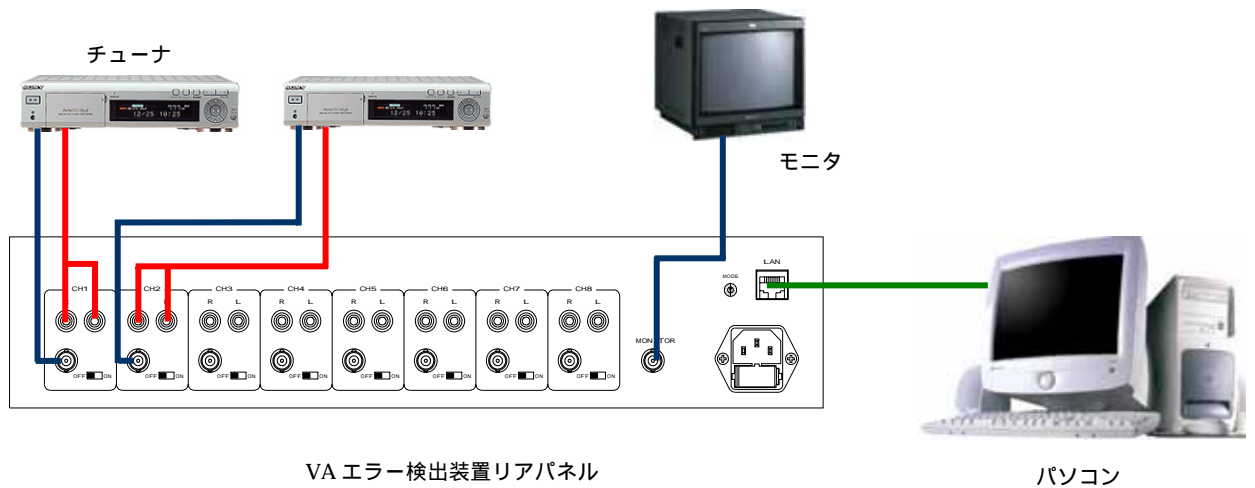
## リアパネル各部の名称と機能

1. 音声コネクタ ( Rチャンネル )
2. 音声コネクタ ( Lチャンネル )
3. 映像コネクタ ( コンポジット )
4. 終端スイッチ  
使用しないチャンネルは終端する必要があります。
5. モニター出力  
チャンネルセレクトスイッチで選択されたチャンネルの映像とウィンドウ画面の座標が表示されます。
6. モード切替スイッチ  
動作モードを選択します。( P 1 0 . I P アドレスの設定を参照して下さい。 )
7. L A N コネクタ
8. 電源コネクタ

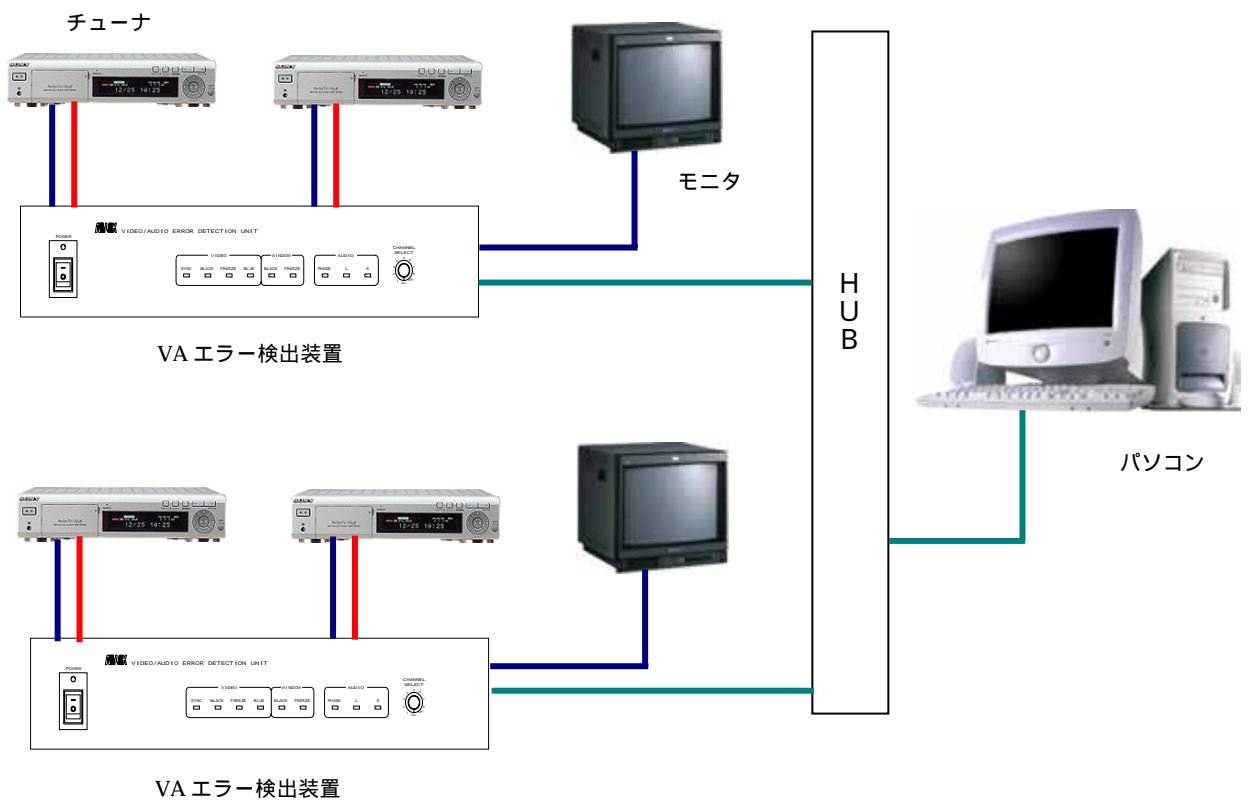


# 接続方法

## 1. パソコンと1対1で接続する場合



## 2. 複数台のパソコンとVAエラー検出装置を接続する場合



## IPアドレスの設定

VA エラー検出装置の使用に際して、動作に必要な IP アドレス、ポート番号を設定する必要があります。

### 1. 動作モードの選択

VA エラー検出装置のリアパネルのモード切替スイッチ（8 ページ参照）を、“7”か“F”に設定し、電源を投入します。

<動作モード一覧>

設定番号	動作モード	機能
0、8	通常動作モード	動作パラメーターにて指定されたプログラムが動作します。
1、9	設定禁止	
2、A		
3、B		
4、C		
5、D		
6、E		
7、F	設定モード	動作パラメータの設定及びユーザープログラムのダウンロード

<注意>

モードスイッチは電源投入時の設定状態が有効になります。従って通電中に変更しても動作モードは変わりません。設定変更後は、本製品の電源を再投入するかリセットを行ってください。

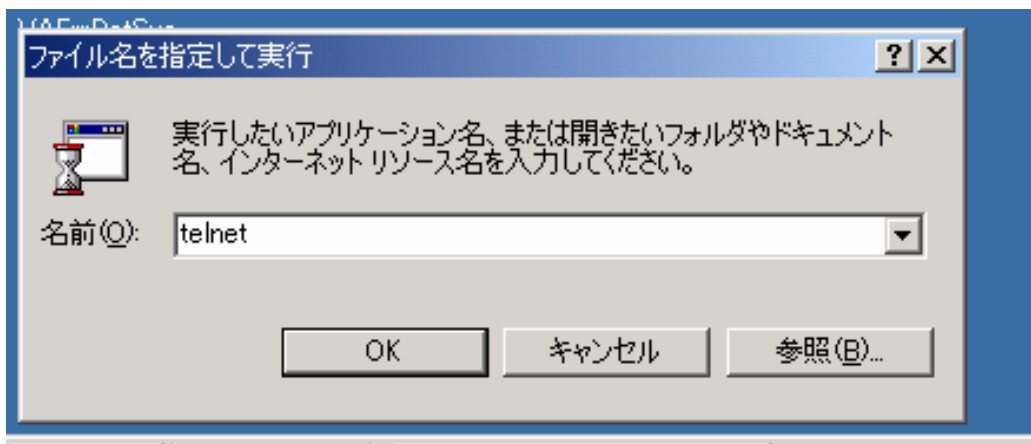
モードスイッチを設定禁止の状態にしないで下さい。

## 2 . IP アドレスの設定

接続するパソコン / サーバーから VA エラー検出ユニットの IP アドレスの設定を行います。

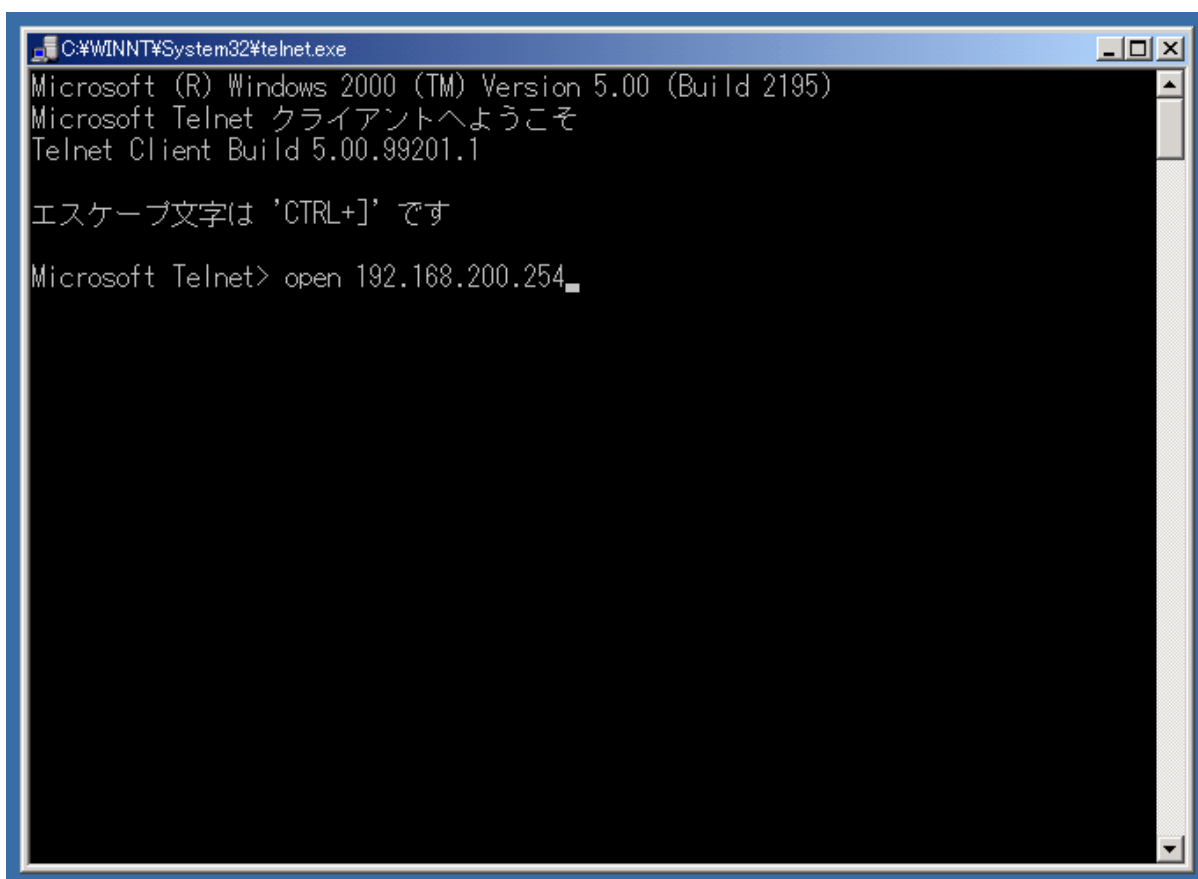
VA エラー検出ユニットの “モード切替スイッチ” を “7 か F” にし、電源の再投入をして下さい。

Windows の 『スタートボタン』 から、 『ファイル名を指定して実行』 を選択し、 “telnet” と入力し 実行します。



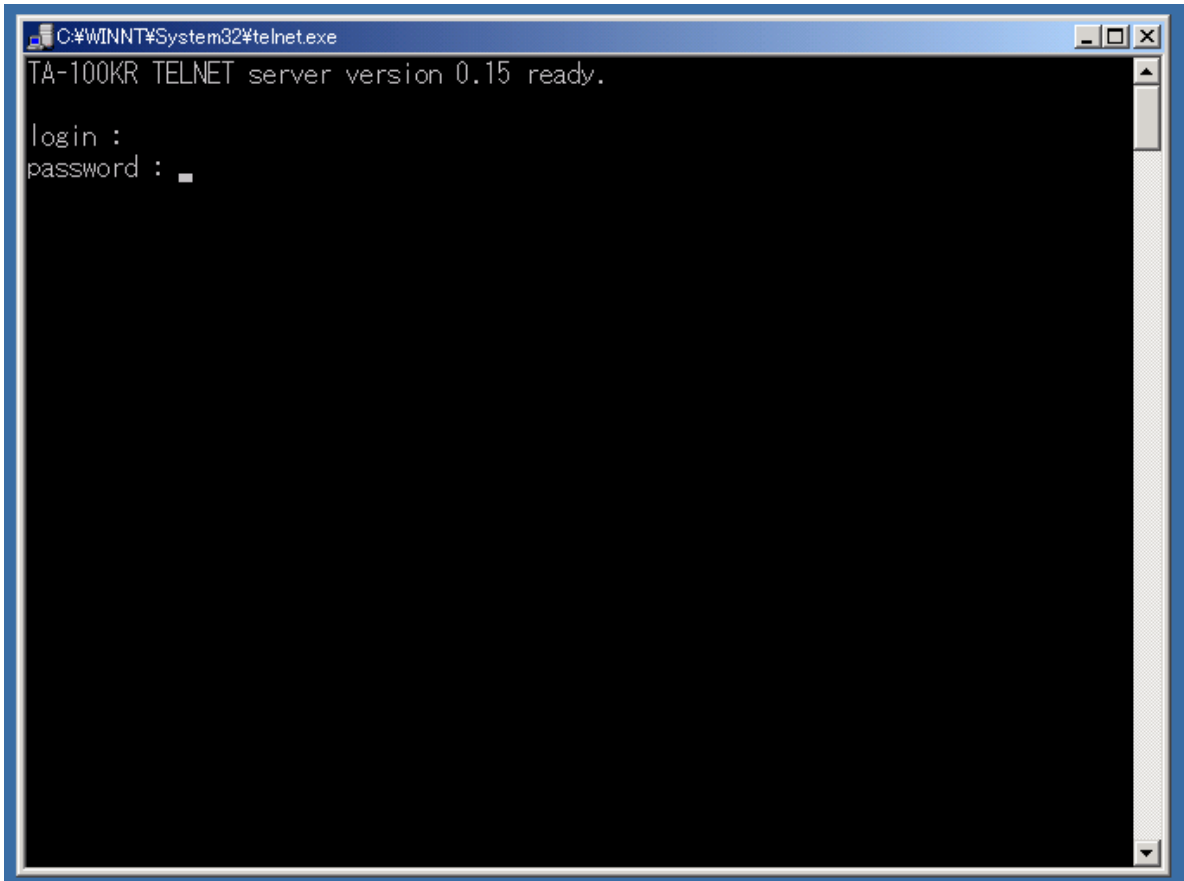
Telnet が立ち上がります。

VA エラー検出ユニットの IP アドレスを入力してオープンします。正しくない値を入力した場合、“Input is out of range” と表示しますので、正しい値を入力して下さい。  
(デフォルトは、“192.168.200.254” になっています。)

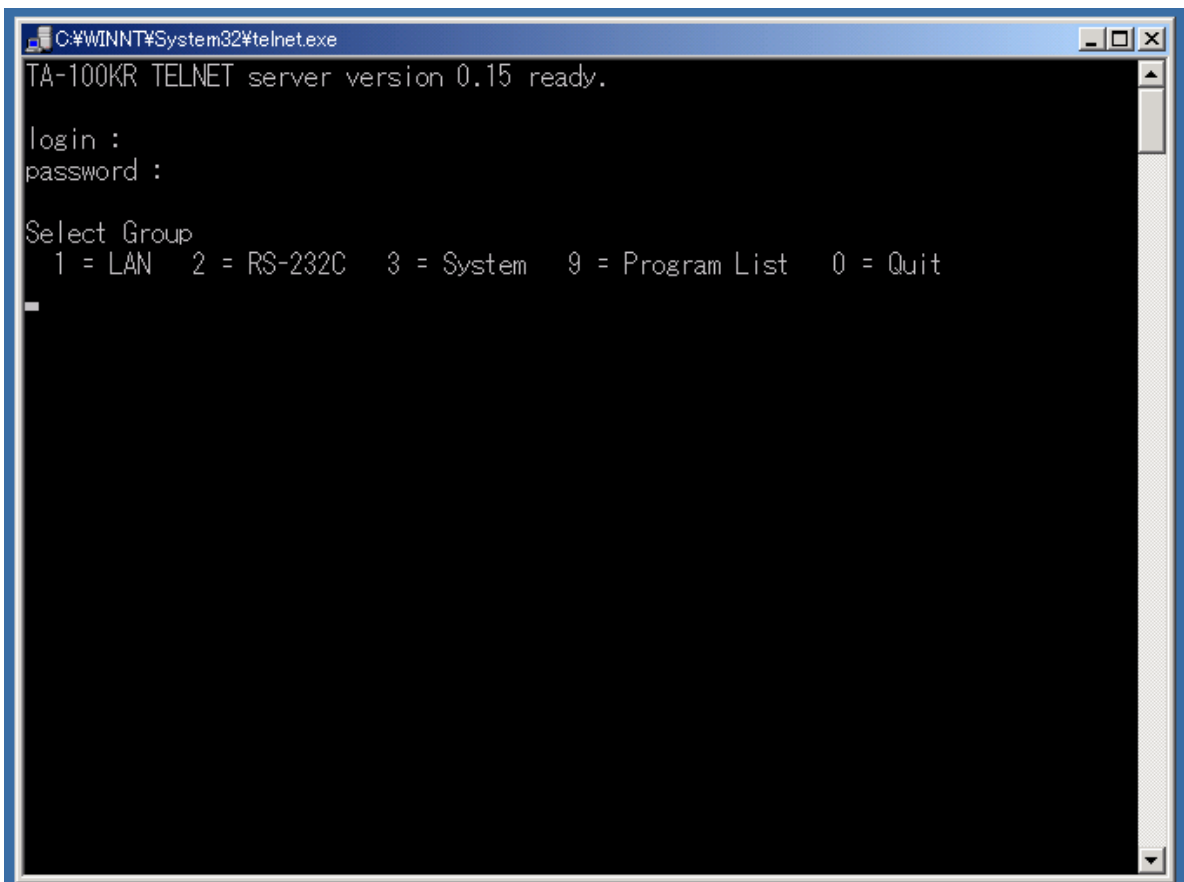


“ログイン” “パスワード” を入力し、エンターキーを押してください。

(デフォルトは何も設定されておられません。)



トップメニュー選択に入ります。



“ 1 = LAN ” の設定を選択します。LAN に関するメニュー選択画面になります。

( 他のメニューは選択しないで下さい )

```
C:\WINNT\System32\telnet.exe
TA-100KR TELNET server version 0.15 ready.
login :
password :

Select Group
1 = LAN 2 = RS-232C 3 = System 9 = Program List 0 = Quit
1

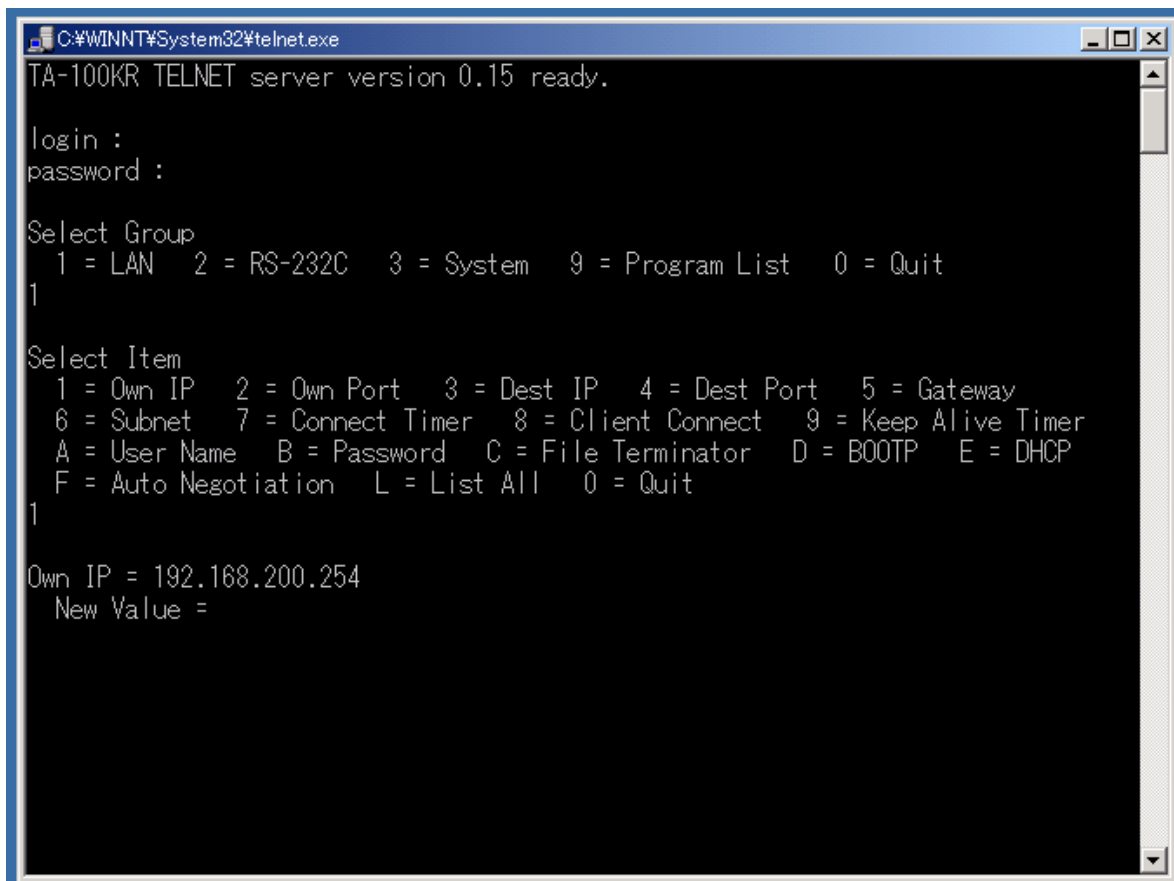
Select Item
1 = Own IP 2 = Own Port 3 = Dest IP 4 = Dest Port 5 = Gateway
6 = Subnet 7 = Connect Timer 8 = Client Connect 9 = Keep Alive Timer
A = User Name B = Password C = File Terminator D = BOOTP E = DHCP
F = Auto Negotiation L = List All 0 = Quit
```

各項目の意味は以下の通りです

- Own IP  
自IPアドレスの設定値を表示、変更します。
- Own Port  
自ポート番号の設定値を表示、変更します。
- Dest IP  
宛先IPアドレスの設定値を表示、変更します。
- Dest Port  
宛先ポート番号の設定値を表示、変更します。
- Gateway  
デフォルトゲートウェイの設定値を表示、変更します。
- Subnet  
サブネットマスクの設定値を表示、変更します。
- Connect Timer  
コネクタイマの設定値を表示、変更します。
- Keep Alive Timer  
無通信監視タイマの設定値を表示、変更します。
- User Name  
ユーザ名の設定値を表示、変更します。
- Password  
パスワードの設定値を表示、変更します。
- File Terminator  
ファイルターミネーターの設定値を表示、変更します。
- BOOTP  
BOOTP設定の設定値を表示、変更します。
- DHCP  
DHCP設定の設定値を表示、変更します。
- List All  
LAN設定の全ての設定値を表示します。
- Quit  
トップメニューに戻ります。

IP アドレスを変更する場合は、“ 1 = Own IP ” を選択し、新しく設定する IP アドレスを入力します。

設定フォーマットは [ 9 9 9 . 9 9 9 . 9 9 9 . 9 9 9 ] で、設定範囲は [ 9 9 9 がそれぞれ 0 ~ 2 5 5 の 1 0 進データ ] です。ただし [ 0 . 0 . 0 . 0 ]、[ 2 5 5 . 2 5 5 . 2 5 5 . 2 5 5 ] は設定できません。



```
C:\WINNT\System32\telnet.exe
TA-100KR TELNET server version 0.15 ready.

login :
password :

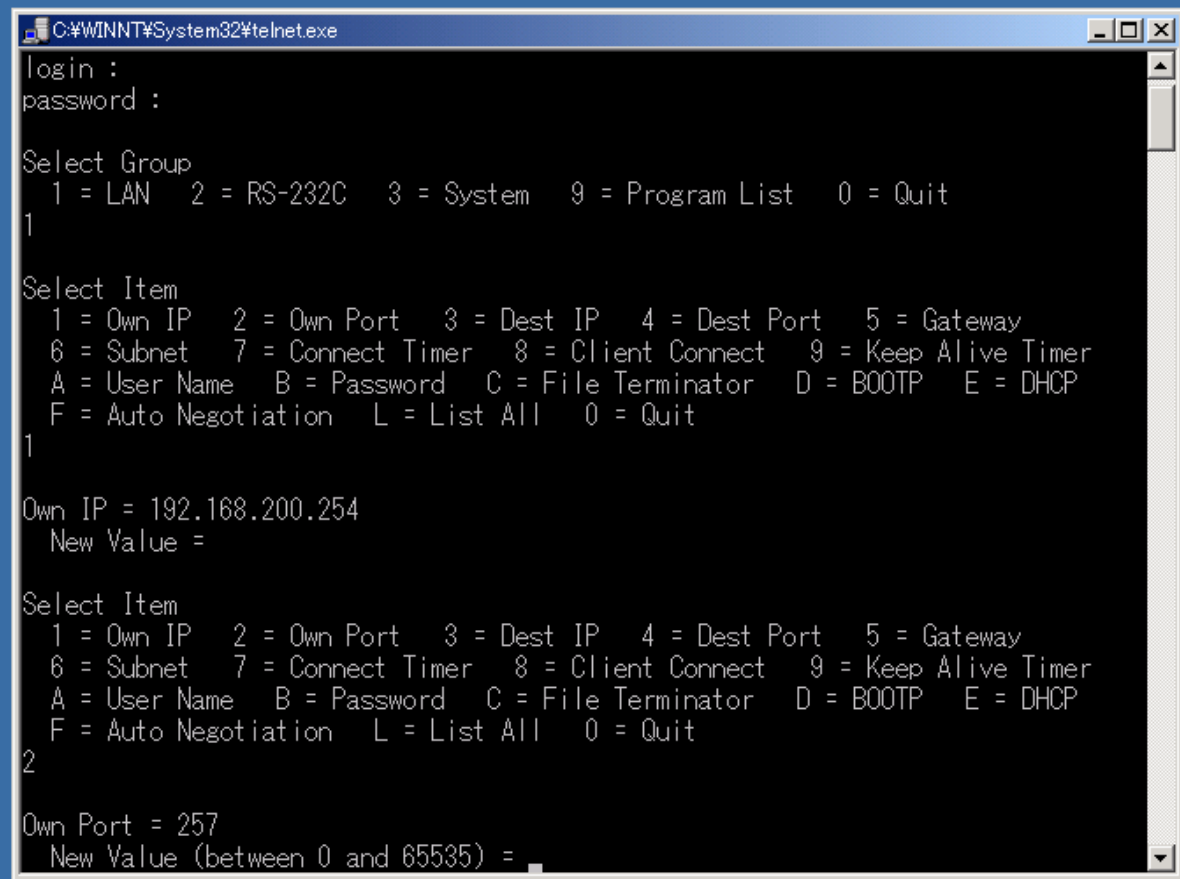
Select Group
 1 = LAN   2 = RS-232C  3 = System  9 = Program List  0 = Quit
1

Select Item
 1 = Own IP   2 = Own Port  3 = Dest IP  4 = Dest Port  5 = Gateway
 6 = Subnet  7 = Connect Timer  8 = Client Connect  9 = Keep Alive Timer
 A = User Name  B = Password  C = File Terminator  D = BOOTP  E = DHCP
 F = Auto Negotiation  L = List All  0 = Quit
1

Own IP = 192.168.200.254
New Value =
```

ポート番号を設定する場合は、“ 2 = Own Port ” を選択し、新しく設定する IP アドレスを入力します。（デフォルトは、“ 257 ” になっています。）

設定フォーマットは [ 9 9 9 9 9 ] で、設定範囲は [ 0 ~ 6 5 5 3 5 の 1 0 進データ ] です。  
ウェルノポート（各プロトコルごとにあらかじめ定められているポート番号） [ 0 ~ 2 5 5 ]  
以外を推奨します。



```
C:\WINNT\System32\telnet.exe
login :
password :

Select Group
 1 = LAN  2 = RS-232C  3 = System  9 = Program List  0 = Quit
1

Select Item
 1 = Own IP  2 = Own Port  3 = Dest IP  4 = Dest Port  5 = Gateway
 6 = Subnet  7 = Connect Timer  8 = Client Connect  9 = Keep Alive Timer
 A = User Name  B = Password  C = File Terminator  D = BOOTP  E = DHCP
 F = Auto Negotiation  L = List All  0 = Quit
1

Own IP = 192.168.200.254
New Value =

Select Item
 1 = Own IP  2 = Own Port  3 = Dest IP  4 = Dest Port  5 = Gateway
 6 = Subnet  7 = Connect Timer  8 = Client Connect  9 = Keep Alive Timer
 A = User Name  B = Password  C = File Terminator  D = BOOTP  E = DHCP
 F = Auto Negotiation  L = List All  0 = Quit
2

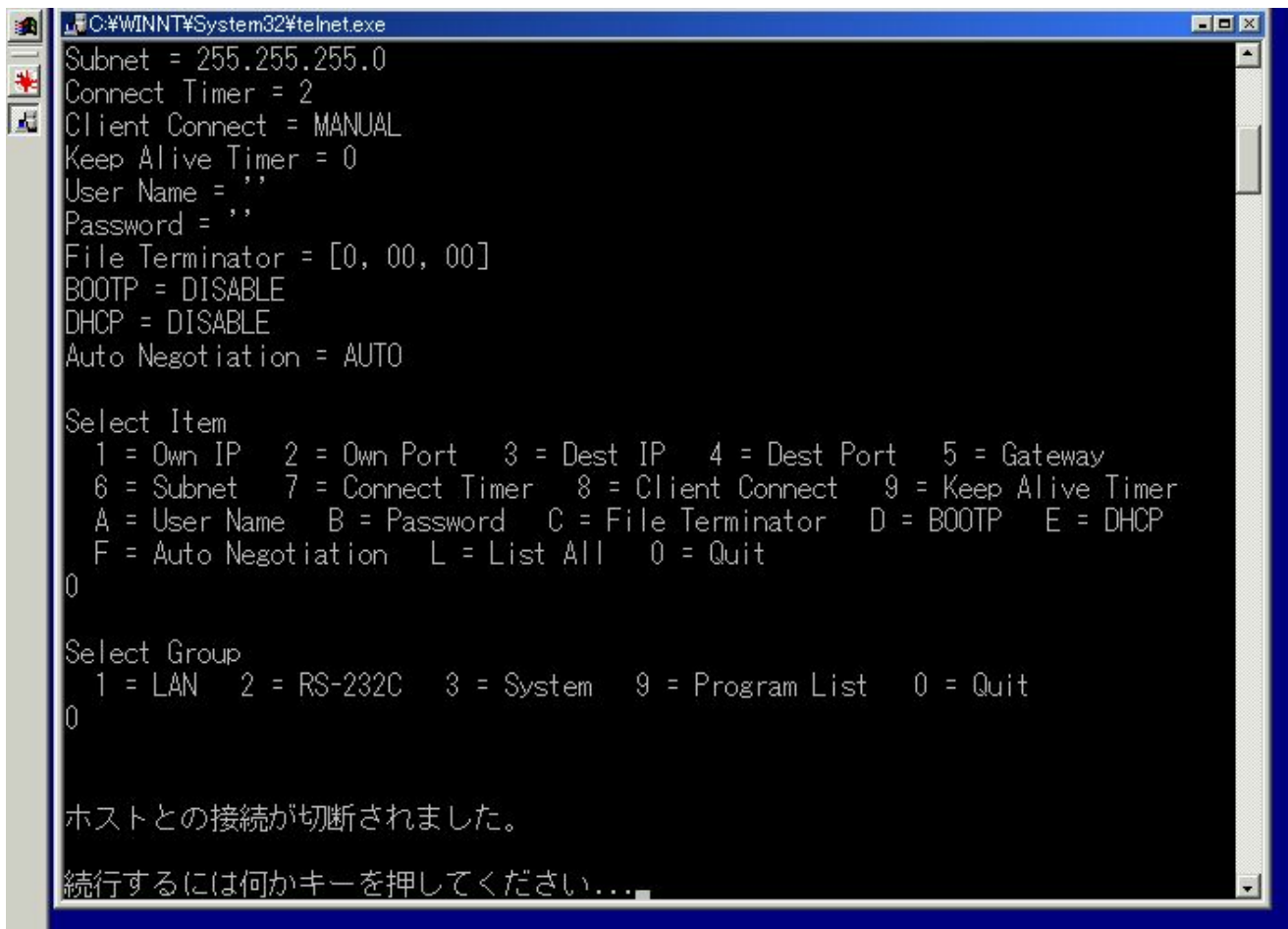
Own Port = 257
New Value (between 0 and 65535) =
```

“ L ” を入力すると、LAN設定の全ての設定値を表示します。

LAN設定メニューで “ 0 = Q u i t ” を選択すると、トップメニューに戻ります。

トップメニューで “ 0 = Q u i t ” を選択すると、全ての設定が有効となります。

( “ 0 = Q u i t ” で終了しないと、設定の変更が有効になりませんのでご注意ください)



```
C:\WINNT\System32\telnet.exe
Subnet = 255.255.255.0
Connect Timer = 2
Client Connect = MANUAL
Keep Alive Timer = 0
User Name = ''
Password = ''
File Terminator = [0, 00, 00]
BOOTP = DISABLE
DHCP = DISABLE
Auto Negotiation = AUTO

Select Item
 1 = Own IP   2 = Own Port   3 = Dest IP   4 = Dest Port   5 = Gateway
 6 = Subnet   7 = Connect Timer 8 = Client Connect 9 = Keep Alive Timer
 A = User Name B = Password C = File Terminator D = BOOTP E = DHCP
 F = Auto Negotiation L = List All 0 = Quit
0

Select Group
 1 = LAN   2 = RS-232C   3 = System   9 = Program List   0 = Quit
0

ホストとの接続が切断されました。
続行するには何かキーを押してください...
```

“ telnet ” を終了して下さい。

VA エラー検出ユニットの電源を OFF にし、モード切替スイッチを “ 0、8 (通常動作モード) ” に切替え、電源を再投入して下さい。



## お問い合わせ先

お買い上げいただきました弊社製品についてのアフターサービスは、お買い上げの販売店におたずねください。なお、販売店が不明の場合は弊社へお手数でもご連絡ください。

故障・保守サービスのお問い合わせは

販売店：

T E L  
担 当

製品の操作方法に関するお問い合わせは

無断転載禁止

株式会社 本 宏 製 作 所  
アルビクス事業部

〒959-0296

新潟県燕市吉田法花堂1949-1

TEL：0256-93-5036

FAX：0256-93-5038